

感情極性表とJanomeを使った文章良し悪し分類

- 感情極性表とは、「岩波国語辞書(岩波書店)」がソースとなっており、名詞49,002語、動詞4,254語、形容詞665語、副詞1,207語について数値化されています
- Janomeとは、自然言語処理で基本となる形態素解析ができるツールである
- 単語に分けた後は、感情極性表に当てはまる語を選び、その文章の値を出す

コード例(一部抜粋)

```
from flask import Flask, render_template, request
import pymysql, language, db

app = Flask(__name__)

@app.route("/", methods=['POST', 'GET'])
def hello():
    html = render_template('index.html')
    return html

@app.route("/send", methods=['POST'])
def lang():
    get_value = request.form.get("bunshyo")
    lang = language.language(get_value)
    db_init(lang.run(), get_value)
    return render_template("send.html", lang=get_value, score=lang.run())

def db_init(score, value):
    DB = db.db(score, value)
    DB.db_table_insert(score, value)

if __name__ == "__main__":
    app.run(debug=True)
```

実行例

感情極性対応表とjanomeを使って、良し悪し文章分類

文章入力:

ラストのアクションシーンはものすごかったし、原作などの予備知識がない分、ストーリー展開はかなり意外でびっくりしました。ただ、エンドゲームの後ということもあり、敵があまりにも小物に思えた私でした。スパイダーマンではなく飛び道具を使うヒーローだったらどうなっていたでしょう。今作は、ハッピーがいいアクセントになっていました。なぜ、暗号をフェューリーが解読できたかあとから気になりました。ラストは、おさまりの次回作への映像ですが、先が全く読めません。今後のフェーズ4に期待です。|

送信

基本動作

- Webページから文章を入力する
- 送信したら、文章とJanomeで処理した結果をデータベースのMySQLに保存する
- そして、送信後のページに移動する
- その後の結果と文章を表示する

感情極性対応表とjanomeを使って、良し悪し文章分類

ラストのアクションシーンはものすごかったし、原作などの予備知識がない分、ストーリー展開はかなり意外でびっくりしました。ただ、エンドゲームの後ということもあり、敵があまりにも小物に思えた私でした。スパイダーマンではなく飛び道具を使うヒーローだったらどうなっていたでしょう。今作は、ハッピーがいいアクセントになっていました。なぜ、暗号をフェューリーが解読できたかあとから気になりました。ラストは、おさまりの次回作への映像ですが、先が全く読めません。今後のフェーズ4に期待です。

-0.4990682060606061

用いたもの

- 感情極性表
- Python
- Flask
- Janome
- MySQL

```
優れる:すぐれる:動詞:1
良い:よい:形容詞:0.999995
喜ぶ:よろこぶ:動詞:0.999979
褒める:ほめる:動詞:0.999979
めでたい:めでたい:形容詞:0.999645
...
ない:ない:助動詞:-0.999997
酷い:ひどい:形容詞:-0.999997
病気:びょうき:名詞:-0.999998
死ぬ:しぬ:動詞:-0.999999
悪い:わるい:形容詞:-1
```